川の子ども新聞

第14号

THE JOMO SHINBUN
上毛新聞

利根川の水の精「ポトム」

P2-3　自然エネルギーを使った3つの発電所を探検したよ！
佐久発電所・田口発電所・吉岡風力発電所。
水の力や風の力で電気をおこす発電所を探検！
P4-5　みんなでつくった「川いいかるた」取りふだ
P6……利根川博士に聞く「奥利根」って、どんなところ？
P7……おたより／みんなでつくった「川いいかるた」読みふだ
P8……ポトムの楽校

風の子、川の子、元気っ子。

みんな風の子、利根川そだちの元気っ子。
あつまれば、ほら、冬空きりり晴れわたる。

高～くそびえる佐久発電所(北橘村)のサージタンクと子ども記者たち

川にまつわる話 13

板橋 春夫

◆ご神体が重くなった話

昔、木曽義仲があつく信仰していた岡田神社、沙田神社、阿礼神社の三社がありました。義仲が死んで、この神社の神主であった南学院という人らが三夜続けて全員同時に不思議な夢をみました。それは神様が出てきて、早く東の方角の地へ移してほしいという夢でした。そこで義仲の家来たちは、神様を七重の箱に入れて東国へと旅立ちました。利根川べりの村にたどり着き、そこに神様を祀ろうとしたところ、土地の人が怪しんで「その箱は何か」と尋ねました。すると家来たちは「これはただの箱だ」と答えました。そのために今でもその土地を箱田と言います。

さらに家来たちは歩いて清い泉が湧くところへやって来て、神様の入った箱を石の上に下ろして休憩をしました。出掛けようとすると、どうでしょうか。箱は重くなり、石にくっついて動かなくなってしまったのです。そこで、家来たちはこの場に神様を祀ることにしました。それが北橘村下箱田の木曽三社神社です。今も泉は豊富に湧き出ており、この湧水を地元では「湧玉」と呼んでいます。

◆矢で飛ばされた観音様

吉岡町漆原に笊観音があります。別名を矢落の観音様といい、次のような話が伝わっています。昔、船尾にあったお寺が千葉左衛門という武将に攻められ、火がかけられて陥落寸前のとき、お坊さんが観音堂の中に入り、本尊の観音様を矢に結んで強い弓で東の方角へ射ました。

その矢は飛んで漆原新田に飛び、たまたまそこで桑摘みをしていた娘のざるの中に落ちたそうです。村人はこの話を聞いて喜んでお堂を建てて祀ることにしました。

◆河童の骨接ぎ

ある日、猟師が船尾滝の滝壺へ水を飲みに来る狐を仕留めようと岩陰に身を潜めていました。狐でなく狼が来たのですが、猟師は鉄砲の引き金を引いたところ、狼は逃げ去り、鉄砲に倒れたのは河童の妻でした。猟師は驚いて家へ帰りましたが、その夜、河童の夫がやって来て、妻を生き返らせてくれと頼みました。しかし、猟師は恐くなり鉄砲で河童の夫も撃ってしまいました。

同じ時間に医者のところへ骨折したけが人が運ばれました。けが人は自ら医者へ治療法を教えました。医者がそのとおりにやってみると治りました。実は、けが人は撃たれた河童の夫でした。このとき伝授された治療法を「河童の骨接ぎ」と言います。治してもらった河童は恩返しに薬草を届けました。

□参考文献／都丸十九一編著『上野の伝説』(第一法規、1974年)、北橘村誌編纂委員会編『北橘村誌』(北橘村、1975年)、吉岡村誌編纂室編『吉岡村誌』(吉岡村教育委員会、1980年)

板橋春夫(いたばし・はるお)
1954年生まれ。群馬歴史民俗研究会代表。著書に『平成くらし歳時記』(岩田書院、2004年)などがある。